

## クラウド採血待合システム“Smart Lounge”有用性の検討

～採血室待合スペースの混雑緩和に向けて～

◎河野 江利子<sup>1)</sup>、畠村 朋子<sup>1)</sup>、高橋 義弘<sup>1)</sup>、大比良 ひとみ<sup>1)</sup>、井口 健<sup>2)</sup>、久保田 芽里<sup>1)</sup>、田中 恵美子<sup>1)</sup>、大坂 直文<sup>1)</sup>  
大阪医科薬科大学病院 中央検査部<sup>1)</sup>、大阪医科薬科大学 情報企画管理部<sup>2)</sup>

【背景・目的】当院の外来採血患者数は年々増加傾向にあり、待合スペースの混雑状況が課題となっている。今回、テクノメディカ社のクラウド採血待合システム“Smart Lounge”（以下当システム）を試験導入し、採血室待合スペースの混雑状況の可視化、および患者の分散化におけるシステムの有用性について検討を行った。

【システムの概要】採血整理券に印字される二次元コードを患者個人のスマートフォンで読み取ることでWEBサイトにアクセスし、採血待合状況（待ち人数・待ち時間・不在番号表示・呼出番号案内）を確認できる。これにより採血受付後は採血室以外の場所で待機可能となり、待合スペースの混雑回避効果が期待できる。なお、クラウドシステムの為、院内ネットワークとのセキュリティの担保には、内外接続部分にネットワークセキュリティデバイス：CYTHEMIS（TOSHIBA 製）を採用した。

【対象と方法】期間は2023年9月から2024年3月までの6ヶ月間とし、対象は当院外来採血患者とした。評価項目は、WEBサイトへのアクセス状況より日毎、曜日別、時間

帯別のアクセスユーザー数を調査した。また、アンケート登録機能により患者から任意で回答を取得し、採血待合場所・使用者年齢層・システム利用満足度を評価した。

【結果】開始後3ヶ月の実績では、総アクセス数はひと月あたり平均約1,000件であり、混雑する曜日・時間帯にアクセス数が伸びる傾向があった。また、アンケート集計結果では、年齢層は20歳未満から80歳以上の幅広い登録、5段階満足度評価では、月平均4.34と高評価であった。待合場所の調査においては43%の患者が採血室待合スペース以外の場所で待機していた。また、当システムは電子カルテ端末からも参照可能であり、各診療科からの採血室混雑状況の問い合わせ件数が減少した。

【考察】当システムは操作が簡便であるため年齢層を問わず利用され、待ち時間に他の検査を受けるなど患者の院内滞在時間の有効利用に繋がっていることが考察された。

【まとめ】当システムは、待合スペース混雑状況の可視化、採血待合の分散化に有用であり、患者サービスに貢献できる結果であった。（連絡先：072-683-1221）